

本物を提供する寿司屋さん

シリーズ～まちの中の達人～



寿司カウンターは絶妙な寸法で作られています。覗きこむと富岡さんのピンクのズボンが見えるかもしれません。

すし屋の天井は奥様の満面の笑顔の中で揚げられています。

(イラスト：井出幸子)

本町通り商店会にある池袋都寿司をお訪ねしました。

店主の富岡さんがこの地に開店したのは21年前。寿司職人になることを目指し、3年の修行を経て、池袋で開業していた先代の店に入り、その後池袋本町によい場所を見つけて開店しました。内装はすべて先代と富岡さんの手作り。竹や銘木を使った内装工事には4か月もかかったそうです。

開店当時は商店街もにぎやかで、すぐにたくさんのお客さんに来ていただき、休む間もないほどに。子供が小さい時には近所の方が預かってくれたこともあるなど、町の人にはずいぶんと助けていただいたそうです。昔に比べて人通りも少なくなり、周りのお店がどんどんなくなっていく中、お客さんに恵まれ、今日までやってきたとのこと。

お店のもっとうは「本物の旨いお寿司」。ちゃんとした素材を手を抜かずにお客さんに提供し、満足していただけることに日々取り組んでいます。寿司のネタ選びはもちろんのこと、料理方法にも創意工夫をこらしています。お寿司の握り方もお客さんに合わせて変えているそうです。

最近では立ち食い寿司デーでお寿司を気軽に楽しんでいただいたり、奥さんが中心になって寿司ネタをつくる天井の日(毎週火曜日)をやるなど、地域の人に親しんでいただける工夫にも余念がありません。元気のいいお話を聞いているうちに時間はあっという間に過ぎていました。



池袋本町 まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho Machizukuri News No.63 2017年9月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http://池袋本町.net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel 03-3981-1464
fax 03-3980-5135
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

今年のふれあいまつり

毎年恒例のふれあいまつりに、今年も新しいまちづくりの会でブースを出します。

今年は新しい企画として「池袋本町遊び場マップ」づくりを行います。昔の遊び場と今の遊び場がどう変わってきたか。そこではどんな遊びが行われてきたかを、参加者の皆さんにお聞きしたいと思います。ぜひ、ブースにお立ち寄りください。

連携校のグラウンドが完成

池袋本町小中連携校のグラウンドが完成しました。これは池袋中学校の敷地全体を土のグラウンドとして整備したものです。面積は10490㎡あり、100mの直線レーンが取得、野球やサッカーにも十分な広さがあります。防災施設として、各方向から入れる避難門や防災資器材格納庫、防火水槽、かまどベンチが整備されています。平成10年度に整備した防災井戸も残されました。



池袋本町ふれあいまつり

日時：平成29年10月8日(日)～9日(祝)

会場：池袋本町公園



バリアフリー体験 今年の体験パトロール(6月10日)

まちづくりの会の清掃点検パトロールを、今年は地区内のバリアフリーがどの程度実現しているか、高齢者の体験ができるキットや車いすを使って点検しました。体験キットを付けると、何とか歩くことはできますが、体の自由は制限され、視界が狭く、歩くだけでもこんなに大変なのかと思わされます。

少しの段差でつまずきそうになり、視界が悪いので道路を横断するのも大変です。車道と歩道の境界部分に段差や障害物があるのかもよく注意しないとわかりません。また、車いすで通行すると、道路のほんのわずかの勾配でまっすぐ進むことができません。

ふだんは何気なく歩いている道でも、まちの中にはバリアフリーがたくさんあることを体験できました。



まごころのバリアフリー

新しいまちづくりの会でバリアフリー体験を行ったので、上池袋にある地域活動支援センター「麦の家」の磯崎さんにお話を伺いました。

「麦の家」は、主に知的障がいを持っている人が通う施設です。社会の中で生活する力をつけていくための作業指導、生活指導を行っています。彼らは一般の人々と同じようにはできないことが多いのですが、一定の作業を行うことはできます。ゆっくり教えることによっていろいろなことができるようになります。むしろ健常者よりも集中力が高い場合が多く、そして得意なことを覚えるのは早いそうです。区役所4階にある「カフェふれあい」には、区内の障がい者の皆さんが作った作品が展示してあります。どれもすばらしい出来栄のものばかり。「カフェふれあい」には障がいを持った人も働いています。

健常者は、自分とは違うということで障がい者を排除したり、偏見を持ったり、過剰に同情したりしがちです。しかし、それは障がいを持った人とふれあったことがない、どう対処すればよいかわからないということが原因ではないでしょうか。

町に出て、いろいろな活動を始めるようになった彼らには、自分とは違うという目で見られることが心のバリアーになっています。まず家族が心のバリアーを取り去り、近所の人、町の人と一緒にかわるようになることによって、障がい者と健常者のふれあいができるようになることが大切です。学校生活での友達どうしのかかわりも心のバリアーを取るのに大切だと磯崎さんはおっしゃいます。

昔は障がいのあることを隠して生活することが多かったのですが、最近ではオープンにする家族が増えてきたそうです。障がい者に対する社会のシステムも格段によくなったそうです。だからこそ、心のバリアフリーが必要なのではないのでしょうか。(静)

つれづれに一言

池袋本町一丁目在住 大畑嘉子

池袋本町に小中連携校が誕生して一年。新しい風景の中に子ども達の賑やかな声が響きます。隣には特養の養浩荘が建築中で、まちがどんどん変わっていくのを実感します。

この夏の前半の猛暑の中、地域の小中学生とキャンプをしました。キャンプ中に見える子ども達の姿は毎年違うのですが、今年もびっくりさせられたことがたくさんありました。その中のひとつ、調理時にビンの蓋を開けられないので、握って回せない、つまり握る力が弱く弱っているのです。考えてみますと、子ども達が日常使っている水道は押すだけで水が出る形から、手を出すと水が出るに変わっているのです。私の職場も誰にでも優しい施設という考えで、トイレに入る時から何もなくても電気が点き、終わったら流れ、手を出すと水が出て、立ち去ると全てオフになります。子どもが自分で考えて行動しなくても大丈夫なのです。そんな生活をしているからでしょうか、キャンプ場のセメントカマドの上を火が燻っているのに平気で歩いたりもします。クツが溶けてしまいます。

住んでいる身近な環境の中で、人間としての能力を獲得していけないことは、大変困ったことだと思えます。幼い頃の全身運動が、心や脳を育てていくのです。道路にあつた、ちよこつとしたでこぼの上で遊び歩きバランス感覚を身につけていたのです。いろいろな視点を持つてまちをつくらなくてはと思います。

公園敷地の拡大

池袋本町二丁目の公園にうれしい話題が飛びこんできました。公園計画用地の隣地の方が公園計画に賛同し、敷地を区が買収することになりました。

拡大するのは敷地の東側。これによって公園は中央通り商店会の道路に面することになりました。面積も1551㎡となり、より充実した公園として整備することができるようになりました。

計画案の見直し

敷地の拡大を受けてアイデア検討会では、公園計画の見直しを行いました。これまで以上に商店街を歩く人も利用しやすい公園となります。また、この公園は防災利用が一番の目的となります。一時集会所として集まり、その後救援センターに

公園の位置図 ■当初の予定地 ■新しく増えた用地



移動することや、地域の防災活動を行う上でも大きなメリットとなります。

また、豊島区防災危機管理課から敷地内に区の防災倉庫を設置できないかとの問い合わせがありました。検討会で話し合った結果、公園の使い勝手にそれほど影響しないよう、敷地の西側の高低差を利用した半地下の防災倉庫を設置することで受け入れることにしました。

計画案のあらまし

検討会で作った計画案は下図のとおりです。敷地内にある段差には、大階段やすべり台、芝生の段々、花壇を設置して、様々な活用できます。

防災設備としてマンホールトイレ、かまどベンチ、深井戸、ソーラー照明、5tの防火水槽の設置を検討しています。常設トイレは近隣の要望と区の方針にしたがって設置しない計画です。

今後の予定

アイデア検討会は、計画案ができあがったところで名称を(仮称)池本二丁目公園検討会と改め、地元の皆様のご意見を伺うために懇談会を開催します。懇談会のご意見を参考に計画案をとりまとめ区に提案します。区では提案をもとに平成30年度に実施設計、31年度に工事を行う予定です。

検討会の公園計画に関する懇談会のお知らせ

検討会でまとめた公園の提案についてご説明し、池袋本町の皆様のご意見をお伺いします。お誘いあわせの上おいでください。

- 日時: 平成29年10月21日(土) 10時～
- 会場: 区民ひろば池袋本町2階
- 主催: (仮称)池本二丁目公園検討会
- 事務局: 豊島区地域まちづくり課

防災倉庫…防災危機管理課の倉庫と町会の防災倉庫、公園管理用の倉庫を設置します。段差を利用して半地下とし、屋上は緑化します。

大階段…段差を利用して大きな階段をつくります。座って休むことや、小さな集会などにも利用できます。

樹木…公園内の見通しを確保しながら夏の木陰となるように落葉高木を中心に植栽を行います。また、近隣からの要望を受けて西側では目隠し植栽を行います。

すべり台…南池袋公園にあるすべり台をイメージしています。すべり台の両側には登るための突起をつけます。

芝段々…芝生の段々です。ベンチ代わりに座ることができます。

地域花壇…地域の方が花を育てられます。段差を利用してお年寄りでも腰の負担の少ないようにします。

歩道状空地…交通量の多い敷地の東側と北側には敷地内に歩道状の空地を設けて、安心して歩けるようにします。子供が飛び出さないようにガードパイプを設置します。

かまどベンチ…災害時に調理ができるかまどになります。

マンホールトイレ…災害時に仮設トイレとして使えます。

ソーラー照明…太陽光発電によって、停電になっても公園の入口部分を照らすことができます。

はらっぱ…敷地の中央は、はらっぱとなり、子供たちの遊び場となると共に災害時に活用することができます。

桜のシンボルツリー…公園の中央には桜を植えてシンボルツリーとします。

深井戸…災害時に生活用水を確保するための井戸です。平常時にも散水などに利用します。飲料には不適です。